

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2275500631		
法人名	有限会社 ワイ・エイチ企画		
事業所名	グループホーム サンシティはいばら		
所在地	牧之原市仁田563番地1		
自己評価作成日	令和2年6月18日	評価結果市町村受理日	令和2年12月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2275500631-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	令和 2年 7月 8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様が安心して生活出来る環境を提供できるような支援・介護を心掛けています。施設の周辺は、山や川、田んぼなど自然が豊かな環境にあるので、利用者様と散歩に出掛け、ご近所の方と挨拶を交わしたり交流を深めています。毎年、秋祭りを開催し、町内会には回覧板を配らせてもらい、地域の方との交流も深めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

施設の周りが自然豊かで茶畑や木々の緑が目によさしい環境である。管理者や職員は利用者のペースを大切にし、利用者本意の生活をしてもらうことに力を入れている。職員不足であったがデイサービスの閉鎖に伴い、職員が確保でき、余裕が生まれ、デイサービスのスペースを含め、今までできなかった事を再開し、これからできることを考えている。職員同士は意思疎通ができていて情報共有は申し送りやノートで行い、協力して業務をしている。食事はスーパーマーケットから届く食材を調理員が心を込めて作っていて職員も同じものを食べている。品数も豊富で、見栄えもよく、食欲が出るような工夫がされている。新しく契約をした訪問看護師が協力的で、利用者の健康状態や疾病の相談にのってくれるようになったので利用者、家族、職員とも安心し信頼できる。地域とのつながりがあるので今後は行事や運営推進会議、防災でも協力関係の構築に期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は職員の目の届く場所に提示し、共有できるようにしている。理念に近づける様に職員が努めている	法人の理念を事業所の理念としている。タイムカード、1階2階の家族にも見えるフロアに掲示し、理念に基づいた目標があり、「笑顔で話をする」を設定して、挨拶もしっかりするように心がけている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元のお祭りや行事には職員も参加し、利用者様と散歩に出かけた時には地元の方と挨拶を交わすなどし、交流を深めている。	町内会に加入している。地元の行事には利用者と職員が出かけるようにし、話をして交流している。事業所のお祭りの案内は町内会の回覧板で回してもらい、散歩に出かけると気軽に挨拶をする関係が築けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を2ヶ月に1度開催し、地域の方々、民生委員さんにも参加していただき、理解を深めていただけるよう努めている	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2か月に1回開催し、地域の方、ご家族様に参加していただき、ご意見を伺い向上に努めている	コロナの影響で市から開催を見合わせるように言われているが、2ヶ月に1度開催するように計画している。参加者が多岐にわたるよう開催方法を検討をしている。出された意見は議事録にし、市役所に手渡ししている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者には、日頃から連絡を取るようにし、事業所の実情は運営推進会議にて報告を行っている	市に提出する書類は窓口を持って行き、その際、意見交換をしている。入居の案内は市から連絡がある。外部研修の知らせも届くが思うように参加できていない状況であり、今後は参加できるよう改善策を検討中である。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束9を宣言しており、利用者様の立場に立ち、安心して介護が受けられるような環境を整備している。特にスピーチロックしないよう気を付けている。	マニュアルは整備されている。委員会は職員全員で3ヶ月に一度行っているが、今後メンバーの再考をする予定がある。研修は会議の時に行ない、内容に苦勞しているが、今後工夫して行う考えがある。ケース検討は会議で行なっている。	

静岡県()

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止のマニュアルを職員が読める場所に置き、職員が虐待防止に関する知識を得られるようにしている。職員同士で指摘できる環境づくりに努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人を利用した事は無いが、制度については、管理者3が職員に話す機会を設けている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項など、改定があった際は十分説明し、利用者様やご家族様の同意を得、且つ不安や疑問点も訪ねるよう心掛けている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設けたり、ご家族様が施設に来られた際には利用者様の状況を報告すると共に意見や要望を聞けるような関係性作りを努めている	ご家族の面会の時に利用者の現状を詳しく伝え、意見を伺うようにしている。家族がゆったり面会してもらえるように部屋で過ごしてもらっている。面会に来られない家族には電話で連絡をとり、写真付きのお便りを家族に毎月送付している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議、ミーティングや日々の会話の中で気軽に意見や提案が言えるような関係性作りを努めている。職員個々の意見を反映できる環境を作っている	職員会議では様々な意見が出ている。管理者は職員の様子を見て、さり気なく声かけをして意見や提案を聞き出している。職員同士も話がしやすい関係であると職員ヒヤリングで確認できた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格手当や処遇改善交付金により手当を出す事で向上心を持って働ける環境に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設へ来て下さる研修を外部に依頼し、他研修や講習などの情報も職員に提示している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は、市内の介護施設の会議に参加しており、情報の交換などをする事で質の向上に心がけている		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面接の段階で本人の生活歴や要望や思いを聞いたり、さぐったりし、本人の安心できるサービスを提供し、入居後さらに関係を築き思いや要望の変更があれば速やかに対応している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面接の段階でご家族様が困っている事や、不安な思いをゆっくり聞く事で安心していただけるな関係を築いていけるよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の面接や情報等で必要な支援である事を見極めサービスを利用して頂く。必要であれば他のサービスについても説明を行っている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭での生活を念頭に利用者様の暮らしを考え、職員が利用者様の立場だったらという思いで時には家族になったつもりで接していけるよう努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様の思いや要望を家族と職員が共通理解をし、同一歩調で本人を支援していく。面会時にはご家族の時間を提供できるように居室でゆっくり過ごしてもらっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	月に1回程度は施設に面会に来ていただけるように新聞にて声を掛けている	現在はコロナの関係で面会を制限しているが、以前は家族や親戚が来ており、家族が来てくれていた時には墓まいり等の外出や外食、馴染みの美容院に連れて外出していた。デイサービスに来てくれていたボランティアの受け入れを継続する予定である。	

静岡県()

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホールで一緒にお茶を飲んだり、同趣味がある方には一緒に会話をしながら出来るよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居時には、今後の動向を伺い、気になっている事などの有無を確認し、出来る事があれば協力するよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様が思いや希望を伝える事が出来るよう関わりを持っていくよう努め、会話の中から聞いた事をケアプランに反映させ支援していく。	利用者の話を聞くようにし、その中から得た情報を職員間で口頭や申し送りノートを共有して、支援している。意思を積極的に伝えられない利用者には話しかけ、反応を観察して意向を汲み取っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に情報を頂いたり、日々の生活の中で本人やご家族様より傾聴し、新たな情報等があれば必要に応じ記録し職員が共有できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は出勤したらまず利用者様に挨拶をし、いつもと違う変化に気付けるよう心掛けている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	作成したアセスメントシートで職員と話し合い、意見を求めケアプラン作成に反映させている。	日常生活の様子や職員との関わり方の反応を見て、3ヶ月に1度モニタリングをしている。訪問看護師の意見や職員の意見を合わせ、家族や利用者の希望にそって介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護サービス内容で1日の利用者様の行動や発言などを記入しケアプランの見直しに活かしている。		

静岡県()

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者さんのじょうたいの変化、ご家族様の思いを考慮し、サービスの多機能化に取り組んでいる		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域(仁田)の祭りへの参加。地域の方々にサンシティでのお祭りにも参加していただき、地域との交流に努めている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	相談、受診できる協力院があり、週に1度訪問看護も利用しているので看護師の指示も仰ぎ、受診に繋げている。	入居前からのかかりつけ医療機関や他科受診は家族が行けない場合は職員が移動距離の交通費を家族に負担してもらい支援している。週に1度の訪問看護師が利用者全員の健康状態をチェックし適切なアドバイスをしてくれ、医療機関との連携も行ってくれる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1度来ている訪問看護師に状態を報告し指示を仰ぎ、受診や介護に繋げている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は利用者さんの情報を看護師に提供し、安心して入院生活を送れるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した際の施設の方針を話し合っていて、終末期には訪問看護と看取りの計画を話し合うようになっている。	入居時に管理者が重度化や看取りについて施設の方針を説明し、同意書もらっている。利用者の状態が悪化してきた時には訪問看護師が医師の意向を聞いて、家族に説明し、相談にのっている。その際には管理者も同席し話し合いをしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急の講習は、何人かの職員が受講しているが、緊急時の実践力を職員全員が身につけてはいない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回防災訓練を行い、避難誘導の訓練を実施している。地元の消防団にも相談している。	昨年は防災訓練が日中、火災想定で1度行った。設備は電気調理器とプロパンガスの併用なので災害時には選択できる。災害時に地元の住民の受け入れ場所として市に提案している。近隣の住民が協力的である。	夜間想定 of 訓練を定期的に行い課題をみつけて改善できるように期待しています。備品のリストの作成を行い、水害や停電時の市との連携を話し合っ確立できるように希望します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の話を否定せず、肯定的に聞き入れる。本人の人格や習慣を受け入れ言葉かけには尊重に心掛けている。	利用者本意の生活を大切にするように心がけている。利用者に対しての言葉かけや対応について問題がある職員に対しては気づいた時に注意をし、その後のフォローを行なっている。スピーチロックの研修は定期的実施している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の訴えや要望に耳を傾け本人が満足できるような対応をするよう心掛けている。いくつかの選択肢を出すことで自己決定がスムーズに出来るよう支援する		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様個々のペースを大切に。出来るだけ日課に沿って生活出来るように支援していく。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1度散髪を支援している。職員が決めるのではなく、利用者様が選択し、服などを選べるような支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様が出来る事は手伝っていただき、普通の会話の中で利用者様が食べたい物を聞き、献立に活かしている。	地元のスーパーマーケットに食材を注文し、配達してもらっている。昼食と週3回の夕食は調理専門職員が作っている。職員は利用者と同じものを食べている。誕生日のイベントでおやつレクレーションとして、ケーキの飾り付けをしたり、外食に出かけることがある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量は毎日記録している。水分が苦手な方には寒天など取りやすいよう支援している。		

静岡県()

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	週に1度訪問歯科を利用している。歯科医の指示を仰ぎ支援に繋げている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄状況は記録している。尿意便意のある方は見守りを重視し、トイレが間に合わない方には声掛け支援を行っている。	排泄の記録をとり、利用者個々の状態に合わせて、支援している。部屋で過ごすことが多い利用者には歩行訓練も兼ねて、トイレを使用してもらえるように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の記録をもとに、担当医師・訪問看護師に相談したり、水分を多く摂っていただけるよう支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は主に2~3回程度入浴していただいている。が、タイミングなどの希望には添えられていない	週に2~3回、午前中に入浴している。利用者はほとんど入浴拒否もなく、ゆったりと入浴を楽しんでいる。職員と会話をしながら入浴する利用者や1人でゆっくり自分のペースで入浴をする利用者それぞれ楽しめるように支援し、時には職員がゆずを持ち寄り、ゆず湯を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣である希望に応じてベッド、布団で寝られるように支援している。居室で自由に横になり休んでいただけるようシーツの選択などを行い、環境づくりに努めている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	クスリの説明書等で薬の種類や効用、服用の仕方、注意事項を理解するようにしている。服薬時には氏名日付を確認し、飲み込みまでの確認をしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1人1人の生活歴を把握し、力を活かせる機会を提供できるよう努めている。		

静岡県()

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や外気浴など、声掛けを行い、拒否される利用者様には無理強いせず、出来る範囲で支援している。	施設の周りは自然が多く、景色がきれいである。敷地内の畑でスイカや玉ねぎの収穫体験をしたらとても好評だったので、今後も継続して行う。最近が高齢化で思うように外出できていない。	気分転換の外気浴や車で景色を楽しむドライブでリフレッシュできるよう工夫して欲しいです。コロナが収束したら、家族に協力してもらい戸外に連れ出してもらえるよう働きかけに期待しています。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭は、基本職員が管理している。買い物と一緒に行く利用者様には、お金を渡し自分で使えるように支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人のご希望で電話を掛けたり、ご家族や知人から電話や手紙が来たりしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	安心・安全な環境の提供を第一に考え、ソファの位置や座席の配置に考慮している。季節に合った壁画などを壁に貼ったり花を生けたりしている	窓から木々や茶畑の緑が見える。1階のリビングの壁には一年を通して四季を表現できるように考えられた紙の木、2階は富士山を表現した掲示物が飾ってある。外には畑があり、昨年はスイカを今年は玉ねぎを育て、収穫を利用者と共に楽しんだ。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室では一人でゆっくり過ごせるよう支援している。ソファや椅子で雑談等が出来るよう努めている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には本人の使い慣れた家具やテレビ・衣類、寝具などを持ってきて頂けるようにしている。	大きくて奥行きのある棚にテレビが置かれ、塗り絵の作品を多数飾ってある部屋もある。クローゼットは収納力があり衣類が収められ、部屋がすっきりしている。ベッドの位置は利用者の動線に配慮して変えてある。部屋の照明をベッドで調整できるように長めのひもを利用している部屋もあった。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様の状態に応じシルバーカーや歩行器等を使用したり、車椅子で移動できるよう道筋を作ったり自立できるよう支援している		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2275500631		
法人名	有限会社 ワイ・エイチ企画		
事業所名	グループホーム サンシティはいばら		
所在地	牧之原市仁田563番地1		
自己評価作成日	令和2年6月18日	評価結果市町村受理日	令和2年12月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2275500631-00&ServiceCd=320&Type=search

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	令和 2年 7月 8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な環境のもと利用者様が自分らしく生活出来るような支援が提供できるよう職員が協力し努めている。
 本人やご家族様の思いや意向に近づけるよう、個々のケアプランを作成し、実施している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) <input type="radio"/>	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) <input type="radio"/>
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) <input type="radio"/>	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) <input type="radio"/>
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) <input type="radio"/>	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) <input type="radio"/>
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) <input type="radio"/>	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12) <input type="radio"/>
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) <input type="radio"/>	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う <input type="radio"/>
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31) <input type="radio"/>	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う <input type="radio"/>
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) <input type="radio"/>		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は職員の目の届く場所に提示し、共有できるようにしている。理念に近づく様に職員が努めている		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元のお祭りや行事には職員も参加し、利用者様と散歩に出掛けた時には地元の方と挨拶を交わすなどし、交流を深めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を2ヶ月に1度開催し、地域の方々、民生委員さんにも参加していただき、理解を深めていただけるよう努めている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2か月に1回開催し、地域の方、ご家族様に参加していただき、ご意見を伺い向上に努めている		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者には、日頃から連絡を取るようにし、事業所の実情は運営推進会議にて報告を行っている		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束0を宣言しており、利用者様の立場に立ち、安心して介護が受けられるような環境を整備している。特にスピーチロックしないよう気を付けている。		

静岡県()

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止のマニュアルを職員が読める場所に置き、職員が虐待防止に関する知識を得られるようにしている。職員同士で指摘できる環境づくりに努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人を利用した事は無いが、制度については、管理者3が職員に話す機会を設けている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項など、改定があった際は十分説明し、利用者様やご家族様の同意を得、且つ不安や疑問点も訪ねるよう心掛けている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設けたり、ご家族様が施設に来られた際には利用者様の状況を報告すると共に意見や要望を聞けるような関係性作りに努めている		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議、ミーティングや日々の会話の中で気軽に意見や提案が言えるような関係性作りに努めている。職員個々の意見を反映できる環境を作っている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格手当や処遇改善交付金により手当を出す事で向上心を持って働ける環境に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設へ来て下さる研修を外部に依頼し、他研修や講習などの情報も職員に提示している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は、市内の介護施設の会議に参加しており、情報の交換などをする事で質の向上に心がけている		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面接の段階で本人の生活歴や要望や思いを聞いたり、さぐったりし、本人の安心できるサービスを提供し、入居後さらに関係を築き思いや要望の変更があれば速やかに対応している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面接の段階でご家族様が困っている事や、不安な思いをゆっくり聞く事で安心していただけるな関係を築いていけるよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の面接や情報等で必要な支援である事を見極めサービスを利用して頂く。必要であれば他のサービスについても説明を行っている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭での生活を念頭に利用者様の暮らしを考え、職員が利用者様の立場だったらという思いで時には家族になったつもりで接していけるよう努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様の思いや要望を家族と職員が共通理解をし、同一歩調で本人を支援していく。面会時にはご家族の時間を提供できるように居室でゆっくり過ごしてもらっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	月に1回程度は施設に面会に来ていただけるように新聞にて声を掛けている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホールで一緒にお茶を飲んだり、同趣味がある方には一緒に会話をしながら出来るよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居時には、今後の動向を伺い、気になっている事などの有無を確認し、出来る事があれば協力するよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様が思いや希望を伝える事が出来るよう関りを持っていくよう努め、会話の中から聞いた事をケアプランに反映させ支援していく。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に情報を頂いたり、日々の生活の中で本人やご家族様より傾聴し、新たな情報等があれば必要に応じ記録し職員が共有できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は出勤したらまず利用者様に挨拶をし、いつもと違う変化に気付けるよう心掛けている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	作成したアセスメントシートで職員と話し合い、意見を求めケアプラン作成に反映させている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護サービス内容で1日の利用者様の行動や発言などを記入しケアプランの見直しに活かしている。		

静岡県()

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者さんのじょうたいの変化、ご家族様の思いを考慮し、サービスの多機能化に取り組んでいる		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域(仁田)の祭りへの参加。地域の方々にサンシティでのお祭りにも参加していただき、地域との交流に努めている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	相談、受診できる協力院があり、週に1度訪問看護も利用しているので看護師の指示も仰ぎ、受診に繋げている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1度来ている訪問看護師に状態を報告し指示を仰ぎ、受診や介護に繋げている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は利用者さんの情報を看護師に提供し、安心して入院生活を送れるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した際の施設の方針を話し合っていて、終末期には訪問看護と看取りの計画を話し合うようになっている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急の講習は、何人かの職員が受講しているが、緊急時の実践力を職員全員が身につけてはいない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回防災訓練を行い、避難誘導の訓練を実施している。地元の消防団にも相談している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の話を否定せず、肯定的に聞き入れる。本人の人格や習慣を受け入れ言葉かけには尊重に心掛けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の訴えや要望に耳を傾け本人が満足できるような対応をするよう心掛けている。いくつかの選択肢を出すことで自己決定がスムーズに出来るよう支援する		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様個々のペースを大切にする。出来るだけ日課に沿って生活出来るように支援していく。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1度散髪を支援している。職員が決めるのではなく、利用者様が選択し、服などを選べるような支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様が出来る事は手伝っていただき、普段の会話の中で利用者様が食べたい物を聞き、献立に活かしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量は毎日記録している。水分が苦手な方には寒天など取りやすいよう支援している。		

静岡県()

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	週に1度訪問歯科を利用している。歯科医の指示を仰ぎ支援に繋げている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄状況は記録している。尿意便意のある方は見守りを重視し、トイレが間に合わない方には声掛け支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の記録をもとに、担当医師・訪問看護師に相談したり、水分を多く摂っていただけるよう支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は主に2~3回程度入浴していただいている。が、タイミングなどの希望には添えられていない		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣である希望に応じてベッド、布団で寝られるように支援している。居室で自由に横になり休んでいただけるようシーツの選択などを行い、環境づくりに努めている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	クスリの説明書等で薬の種類や効用、服用の仕方、注意事項を理解するようにしている。服薬時には氏名日付を確認し、飲み込みまでの確認をしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1人1人の生活歴を把握し、力を活かせる機会を提供できるよう努めている。		

静岡県()

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や外気浴など、声掛けを行い、拒否される利用者様には無理強いせず、出来る範囲で支援している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭は、基本職員が管理している。買い物と一緒にに行ける利用者様には、お金を渡し自分で使えるように支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人のご希望で電話を掛けたり、ご家族や知人から電話や手紙が来たりしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	安心・安全な環境の提供を第一に考え、ソファの位置や座席の配置に考慮している。季節に合った壁画などを壁に貼ったり花を生けたりしている		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室では一人でゆっくり過ごせるよう支援している。ソファや椅子で雑談等が出来るよう努めている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には本人の使い慣れた家具やテレビ・衣類、寝具などを持ってきて頂けるようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様の状態に応じシルバーカーや歩行器等を使用したり、車椅子で移動できるよう道筋を作ったり自立できるよう支援している		